

社長メッセージ

環境の変化や多様性への適応により、 持続的成長ができる組織へ

当社はコングロマリット企業として130年以上の歴史を積み重ねてきました。専門メーカーと比べると経営が複雑かもしれませんが、コングロマリットだからこそ社会の変化や多様なニーズに対応していくことができるという面もあります。

そのような変化の蓄積を活かしながらも、外部環境が大きく激しく変わっていく見通しの中で、当社は機械・エンジニアリング分野のグローバル複合企業としての新しいあり方を探していくべきなのだと思います。

日本の経済成長に合わせ、当社が主に日本国内のマーケットで成長を遂げてきたことは先に述べた通りですが、現在の国内市場においても、未だ当社の製品や技術が活躍できる場はあり、そういったものについては引き続き強化していきます。しかし今後は、海外で伸びていくポテンシャルを持った製品・事業に、より多くの経営資源を割いていく必要があります。ICTを中心にさまざまな分野で革新が起きている中で、最先端技術や外部の知見を、我々の最大の強みであるエンジニアリングや製品の心臓部を握るコア技術に柔軟に取り込んでいくことが重要です。つまり、これまで長い時間をかけて培い、これからも守っていかなければいけない技術は守り、世の中の変化に合わせて柔軟に変えていかなければいけないところは変えていく、その両方ができる組織になる必要があります。

海外で事業を伸ばしていくためには、グローバルな視点だけでなく、その地域に合わせたローカルな視点が欠かせません。2018年度に予定しているグローバル本社機能の丸の内への移転を機に、グローバル経営体制を強化するほか、各ローカル拠点への権限委譲と責任明確化を進めることによって、グローバル経営と地域特性に合ったローカル経営を上手く組み合わせたいと考えています。

これからも価値を生み出し、社会にとって必要とされる当社であり続けるためには、このような組織や体制の構築はもちろんのこと、やはりそこで働く「人」が最も重要なのだと思います。一つの製品の需要というか寿命が数十年間も持続することが難しくなっている昨今においては、社会の変化に適応し素早くニーズを掴む人材を有することがとても重要になってきています。また、どのような事態が起きても、それを克服し、組織を動かしていくリーダーシップを持った人材を育てるためには、目指すゴールと道筋を社員に発信・共有し、挑戦し、乗り越える経験を、複数の部門にまたがって積むことによって、人材が継続的に育っていく環境を作っていかなければなりません。

飛躍のための土台は一連の構造改革で整えてきました。次の中期経営計画では、人材面も含めて持続的成長のステージに向けた一步を踏み出すべく、引き続き努力してまいります。

人材育成については、
➤ P22、24のグローバル社会に適応した経営基盤の構築 重要課題2 グローバルベースの人的資源の活用をご参照ください。

取締役

2017年7月1日現在

1. 取締役会長
大宮 英明

2. 取締役社長
(CEO※1)
宮永 俊一

3. 取締役 常務執行役員
(CFO※2、
グループ戦略推進室長)
小口 正範

4. 取締役 常務執行役員
(CTO※3)
名山 理介

5. 取締役
常勤監査等委員
泉澤 清次

6. 取締役
常勤監査等委員
後藤 敏文

7. 取締役
篠原 尚之
(東京大学政策ビジョン
研究センター教授)

8. 取締役
小林 健
(三菱商事株式会社
取締役会長)

9. 取締役
監査等委員
畔柳 信雄
(株式会社三菱東京UFJ銀行
特別顧問)

10. 取締役
監査等委員
クリスティーナ・
アメージャン
(一橋大学大学院
商学研究科教授)

11. 取締役
監査等委員
伊東 信一郎
(ANAホールディングス
株式会社取締役会長)

※1 CEO:Chief Executive Officer
※2 CFO:Chief Financial Officer
※3 CTO:Chief Technology Officer



はじめに

経営戦略

事業による価値創造

コーポレート・ガバナンス